

ふらっと旧中山道

## 御嵩宿～伏見宿～太田宿を歩く（後編）

（つづき）

### ランチはコンビニ弁当

しばらく歩き下り坂が右にカーブするところにコンビニがあった。そこで閃いた、木曽川も近いのでコンビニで弁当を買って川岸で食べよう。友も同じことを考えており早速店に入る。いろいろ並ぶ中で私たちは、えび天ののった天井と助六にした。友はちらしずし?と冷やし中華を選んだようだ。買ってから友の言うには、この店の売れ筋 No1 は冷やし中華と表示があったというがそれは気がつかなかった。店の前の八千代温泉の看板を過ぎた少し先に神社のマークがあり、その辺りが木曽川に最も近いと思われる。木がこんもり茂る所が見えており、そこであろうと目星をつけて進む。到着すると神明神社であった、境内に入るが川に近いという雰囲気はない。本殿の後ろまでぐるりと回るも川は見えない、友は少し先まで調べてきたが川はここよりかなり低い所を流れているという。やむを得ず本殿脇に腰掛けて弁当を開く、しかし、木のしげる神社にしては蚊がおらずゆっくり食べることができた。案外風も通っているみたいだ、それはそうと、冷やし中華を買った友の細君は私と友がほぼ食べる終わるころになって、やっと準備が完了して食べ始めるといふ。いったいどんな風にして食べる冷やし中華なのだろう？

### 新旧の道路が変える街の姿

食べ終えてスタートするとほどなく国道 21 号の可児御嵩バイパスと合流する、この辺りは右側が開けて木曽川に向けてかなり低くなっている、河岸段丘と言われる地形だ。大きなパチンコ屋があり、合流部は旧国道が一部残

って新旧のつなぎになっていた。そこに廃業したパチンコ屋が草に覆われている、新道ができたのでそちらに移ったのか、それとも倒産したものなのか……。道路が変わると商いには大きな影響与えることを如実に物語っている。そんな建物をしり目に進んで行くと、「中山道一里塚跡」の石柱が立っていた。よく見ると「これより約 30m 東」とあるので、低いほうへくだる坂の途中にあったらしい。そこから先では舗装された道の端、ガードレールに沿ってキバナコスモスらしき花がたくさん咲いて美しかった。妻が種を畑に植えてみようと言うので、花の咲き終わった部分を少しいただき持ち帰った。

その先で中山道は右に分岐してほどなく「加茂中央公設市場」の案内看板が現れた、そこから少し行くと多治見と美濃太田を結ぶ JR 太多線を横切る。その線路手前の畑の一角にいくつかの石碑が集められている場所があった、「辞せ塚」の石柱があるので辞世の句を集めたもののようだが、あまり見かけることはない。ここからほぼ一直線に延びた道を進み、改良工事の行われている国道 248 を横切って 20 分程歩いた所に教会が現れた、と思ったらチャペルを併設した結婚式場だった。落ち着いた家並をさらに 10 分も歩くと、道は大きく右に曲がって木曽川に架かるブルーの太田橋が見えてきた。

## 悠々と流れる木曽川を眺めてコーヒータイム

木曽川の流れを前に橋のたもと右側に、「太田の渡し」の立派な石碑がある。中山道では「木曽の棧 太田の渡し 碓氷峠がなくばよい」と唄われた難所の一つ。左側には一目で喫茶店と分かるオレンジ色の建物が建つ、時間は 13.10 ではあったが迷わずコーヒータイムにする。中へ入ると窓からは、木曽川の流れがワイドスクリーンのように広がって素晴らしい眺めだ、そんな窓際の席に落ち着いてアイスコーヒーを頼んだ。出されたコーヒーにはこの時間でのサービスとしては珍しく、小さなカステラとモンキーバナナ 1 本、そのうえ小さくカットしたメロンまで付いていた。モンキーバナナは甘くておいしかったし、カステラも Goo だった。コーヒーだけでなく木曽川の美しい流れも満喫して 20 分程休憩、これで 400 円はお値打ちで満足満足。喫茶店の名は「ホワイト・リリー」という。



太田の渡しの石碑



太田橋

今の太田橋は自動車用と人用の2本の橋があり、車に気を配ることもなく安心して渡ることができる。中ほどまで進むと対岸にライン下りの船着き場があり、2艘の舟が見える。確か定期運航はしておらず、予約のみで運営しているはず。天竜下りや最上川くだりは乗船したが、近場の日本ライン下りは乗ったことがない。木曽川を渡りきると国道21号にぶつかり左折する、ここからしばらく歩くと中山道は左に分岐して宿場へ入る。

## うだつのあがる「脇本陣林家住宅」

太田宿は板橋宿から51番目の宿で、恵那から鷓沼までの恵那、加茂、土岐の三郡を統括した尾張藩代官所が置かれた重要な地点だった。町並みは東西に680mあり、本陣・脇本陣をはさんで問屋、旅籠、遊女屋が軒を連ねていた。宿場は以前に見学したので、今回はさらりと通ることに。



脇本陣林家住宅



本陣の薬医門

その中で国の重要文化財に指定されている「脇本陣林家住宅」を見学した。林家は初代市左衛門が屋敷を構えて以来、脇本陣のほか太田村の庄屋や尾張藩勘定所の御用達も務めていました。また質屋や味噌醤油の製造販売も営む旧家です。往時には東西25間の間口を持ち、土蔵10棟、馬屋3棟、離れ座敷など持つ壮大な構えだったという。明和6年(1769)に建てられた主屋は街道の南側に北面して建っている。切妻の両端にはりっぱな「うだつ」が設けられて、この家の権威と格式を示しています。広い土間の吹き抜けに見られる梁組や、黒光りする太い柱など素晴らしいもので、昭和46年に国の重要文化財に指定されました。明治15年4月5日岐阜で暗殺された板垣退助は、その前日に太田で演説しこの脇本陣林家に宿泊している。さらに日本アルプス槍ヶ岳開山の播隆上人が宿願を果たし、その帰途脇本陣林家にて病に倒れ天保11年に亡くなった。

一方、本陣は門のみが残され美濃加茂市の指定有形文化財になっている。文久元年(1861)に仁孝行天皇の皇女「和宮」が14代将軍徳川家茂に嫁ぐため、江戸に向かう時に新築された。今も残る門は一間の薬医門(本柱が中心線上から前方に置かれている門)で、昭和の初めに現在の場所に移築されたという。

## 鉄道のダイヤは利用者本位になっていない

太田宿の外れで時間は14.20頃、この時間なら次回のことを考えてJRの

次の坂祝駅まで歩くことにした。宿場の柵形を抜けて国道 21 号に合流し歩き始める、しかし、このころから足が痛いのが感じていた。右も左も親指が靴にあると痛いのだ、そのためこれまでは友と並ぶようにして歩いていたが、少し遅れ気味になっていた。さらに私の少し後ろを二人の上さんが歩いていた。走り抜けるトラックの風で 2 度も帽子を飛ばされながら、味気ない国道を歩く。そんなときふと頭をよぎるのは、坂祝駅に到着すると列車が発車した後で 30 分も待つのではということだった。



パジェロ製造の会社



坂祝駅の陸橋から鵜沼方面を見る

半分少しを歩いた辺りに三菱の「パジェロ製造」がある、こんな山の中に立派な工場があるのも不思議だが、鉄工場を経営している友の話ではこの工場は元々は機屋だったそうだ。現在はこの工場が海外へ移転するのではないかと言う話もあるそうだ。その先で坂祝町の役場前を通りすぎしばらくして右に曲がり駅に向かう、緩やかな上り坂になっており路面がぬれている。おかしいなと思いながら進むと、ホースが道路に延びて水が少しずつ出ていた。先ほどからダンプが往来しており、ほこりよけのために水を流しているようだ。じきに線路にぶつかると思ったのだが、かなり歩いたように感じられる。やっと線路が現れるも駅舎は見当たらず、そこから 200m くらい先にそれらしい建物が見える。すると先に行った友が駅舎に着く前に、前方に列車のライトが見えてきたのだ。これではとても間に合わない、悪い予感が的中してしまった。15.44 の列車には乗れず、次の 16.14 に乗って美濃太田駅に降りるとタイミングよく 5 分程で多治見行きに乗れた。これはまだウンが付いているかなと話しながら可児駅に到着、名鉄の御嵩行きはホームに停車してお

り急ぎ乗り換えようと走ったが、目の前で列車は出て行った。  
JR と名鉄は別の会社ではあるが、地域の交通機関であるなら互いに 30 分に 1 本しか走らない列車の乗り継ぎくらい考えられないのか!! ととても腹立たしく感じた。こんな事だから地域の真の発展はおぼつかない、利用者の立場になって考えることができないならどんどん衰退するだろう。およそ 30 分待って次の御嵩行きに乗り、御嵩会館の駐車場に戻った。